

4. 新得らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す

指標	数値目標	実績値 ※括弧内は単年度の実績				
		27年度累計	28年度累計	29年度累計	30年度累計	31年度累計
移住者数	5年間で25人	2人(2)	6人(4)	9人(3)		
転入者数	5年間で50人増	33人減(-33)	37人増(70)	78人増(41)		

①施設機能を活かした交流人口の拡大

実業団等の合宿誘致、全国・全道規模の大会誘致

町内にある各スポーツ施設を活かし、実業団や学生、スポーツ団体等の合宿や全国・全道規模の大会を誘致し、交流人口を増やすとともに、町内経済への波及につなげる。

スポーツ施設の整備

合宿等の受け皿施設として新たに全天候型陸上トラック・人工芝サッカーコートを整備する。



重要業績評価指標 27年度実績 28年度実績 29年度実績 進捗状況

合宿宿泊数：年間延べ5,000泊	4,143泊	3,803泊	2,454泊	C
整備年度：平成29年度	設計変更、各種申請行為	工事着手、1期工事目	2期工事目	C
移住者数：5人/年	2人	4人	3人	B
協力隊員招致数：10人/年	10人	15人	10人	B
連結許可：平成29年度	関係機関協議の随時実施	-	-	C

②情報発信の強化と移住定住の促進

官民協働による道内外への情報発信、移住体験事業

町内関係団体や北海道移住促進協議会などと連携し、移住希望者に向けた情報発信や移住相談、移住体験事業に取り組む。

③新たな交流・人の流れの創出

大学との連携による新たな人の流れの創出

大学の持つ専門的知識の活用や、町内事業所へのインターンシップなどを通じて定住に結びつく新たな人の流れを創りだす。

地域おこし協力隊員の招致

地域おこし協力隊員の視点による新たな地域資源の発掘や町の魅力を道内外に向けて情報発信することなどに取り組み、都市部からの人の流入と定住につなげる。

④人を呼び込むためのインフラ整備

追加インターチェンジ・道の駅の整備

高速道路の有効活用と利便性の向上、産業や観光など物流や人的交流を促進するために必要なインフラとして追加ICを整備する。また、観光などの地域情報を発信するとともに、道路利用者が気軽に立ち寄り利用できる場としての道の駅整備も平行して進める。

②小さな拠点（多世代交流・多機能型福祉拠点）の整備

地域交流スペース、避難所整備

今後整備する福祉施設に世代や機能を限定せず、小地域の実態にあった地域交流、地域支え合いの拠点となる多世代交流・多機能型福祉拠点を整備する。



③障がい者が安心して暮らせる環境の整備

障がい者グループホームの整備

障がい者が将来にわたり安心して住み続けられるよう、知的・精神向けの障がい者グループホームを設置する。

障がい者就労支援（再掲）

障がいがあっても本人の希望・適正に応じた就労ができるよう、障がい者就労を推進する。

④定住につながる住環境の整備

持ち家の促進、空き家活用、定住住宅整備事業

持ち家住宅の建築や空き家の活用のための改修に対する奨励金等の支給、雇用を促進するための住宅建築に対する助成を行う。

子育て支援住宅の整備

子育て世代が安心して暮らせる住宅を整備し、住環境の面から子育てを支援する。

交流宿泊施設の整備

駅周辺の利便性を生かし、来町者、高齢者、単身者、学生等が短・長期的に宿泊し、交流ができる施設を整備する。

コミュニティバスの運行

高齢者や障がい者など日常生活の移動手段の確保が困難な町民の足として、町内を巡回するバスを運行し、利便性を確保する。



⑤広域連携の推進

十勝定住自立圏共生ビジョンに掲げる施策の推進

- 生活機能の強化：救急医療体制の確保ほか17項目
- 結びつきやネットワークの強化：地産地消の推進ほか3項目
- 圏域マネジメント能力の強化：圏域レベルのデータ集積、活用ほか1項目

重要業績評価指標 27年度実績 28年度実績 29年度実績 進捗状況

整備件数：5年間で3カ所	関係者等との協議実施	1カ所	1カ所	B
整備件数：5年間で8戸	関係者等との協議実施	関係者等との協議実施	関係者等との協議実施	C
就労支援事業所開設：5年間で1件	0件	1件	0件	A
住宅建築、空き家活用数：年間30戸	62戸	30戸	24戸	A
住宅整備数：5年間で6戸	0戸	0戸	1戸	C
5年後までに整備	0戸	0戸	4戸	B
利用者数：年間7,700人	8,311人	8,160人	9,477人	A
十勝管内の観光入込客数：延べ1,020万人/年 十勝管内バス乗客数：462万人/年	延べ1,036万人/年 延べ457万人/年	延べ956万人/年 延べ453万人/年	延べ1,042万人/年 延べ466万人/年	A